

## 江戸時代尾張国における哺乳類の文献記録

名和 明<sup>(1)</sup> 野呂 達哉<sup>(2)</sup>

<sup>(1)</sup> 名古屋哺乳類研究会

<sup>(2)</sup> なごや生物多様性センター 〒468-0066 名古屋市天白区元八事5-230

### Literature records of Mammals in Owari Province during the Edo-period

Akira NAWA<sup>(1)</sup> Tatsuya NORO<sup>(2)</sup>

<sup>(1)</sup> Nagoya Society of Mammalogists

<sup>(2)</sup> Nagoya Biodiversity Center, 5-230 Motoyagoto, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-0066, Japan

Correspondence:

Akira NAWA E-mail: akiranw@paw.hi-ho.ne.jp

#### 要旨

江戸時代の尾張国を対象として、動物名が記述された記録や関連する狩猟、見せ物など分野別記録を、一次資料を解読した二次史料の文献を探索し、収集した。この内、特に哺乳類の記録について、和名など現行の動物名を推定し、それぞれの記録数、分野別頻度を示した。これらの記録を基に、尾張国内各郡および現名古屋市における哺乳類の記録リストを作成した。さらに主な種類について郡別の推定分布図を作成し、過去の生息状況の概要把握を試みた。これらの結果、この地域では絶滅種のオオカミやカワウソの記録が残り、また、アカギツネやタヌキ、ニホンイタチはほとんどの郡で確認された。当時はこれらの種が広範囲の地域に分布していたことが推測された。哺乳類で記録数が最も多いニホンジカの記録数において極端に多い記録年が認められる。これはニホンジカの個体数変動に起因するのかもしれない。

江戸時代尾張国の哺乳類相とその分布については、未だ不明な部分も多く、今後、新たな史料、記録を探索する必要がある。また、生息数や現況までの経緯が不明であることから、今後は、江戸時代から現在に至る明治・大正・昭和時代の記録の探索も必要であろう。

#### はじめに

我々は、名古屋市内に生息する哺乳類の現況を調査している(名和, 2008; 野呂, 2015)。生息状況は刻々と変化しており、その一断面を調査しているに過ぎないが、同時に過去にも注目し、長期にわたる変化を把握したいと考えている。本報では、史料の多い江戸時代の尾張国に焦点を当て、特に哺乳類に関連する文献記録の探索を行い、過去の生息状況の概要把握を試みた。

#### 方法

本報告における江戸時代とは、徳川家康が征夷大將軍に任命され江戸に幕府を樹立した慶長8年2月12日(新暦1603年3月24日)から、江戸城が明治政府軍に明け渡された慶応4年(明治元年)4月11日(1868年5月3日)までをいう。今回の報告では、この時代に執筆されたとみられる尾張藩の一次史料を解読した二次史料から、想像上の動物を含む動物名が記述された記録や関連する狩猟、法令などの記録を収集した。尾張藩は江戸、美濃国などにも領地や支藩を所有していたが、ここでは現在の

愛知県尾張地方にはほぼ該当する尾張国（当時の愛知郡、春日井郡、丹羽郡、中島郡、葉栗郡、海東郡、海西郡、知多郡）のみの記録を対象とした。記述内に地名の記述がないものでも明らかに尾張国内に関連した記録であれば対象とした。

記述中に記録年が明記されているものは神田（1973）、野島（1987）を用い新暦に変換した。記録年がないものは推定発行年を記録年とし、発行年不明な文献については江戸時代と一括した。

記録の内容については、生息する動物名を記述した「記載」、藩による鹿狩りの記録など「狩猟」、「見せ物」、事件など「出来事」、生類憐れみの令関連法など「法令」、動物に関連した怪奇現象「怪奇」、獣害などの被害に関連した「被害」、調理素材など「料理」、「伝承」などに分類した。2分野以上の重複した記述の場合は、主たる分野で集計した。

記述された動物名が現在と同じか疑問は残るが、そのまま動物名として記録した。ただし、史料で鳥類にコウモリ類が、魚類にクジラ類が分類されているなど明らかに誤りがある場合は修正した。記録名は哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類（節足動物のうち多数を占めるので、節足動物とは別に集計した）、節足動物（昆虫類を除くクモ類、甲殻類など）、軟体動物（頭足類、腹足類、貝類など）、その他（環形動物、棘皮動物、刺胞動物、不明種など）に分類した。

哺乳類については、記述された動物名から和名など現行の動物名を推定し、それぞれの記録数、分野別頻度を示した。これらの記録を基に、尾張国内各郡および現名古屋市内の哺乳類記録リストを作成した。哺乳類の記録が確認できた郡をまとめ、主な種の推定分布図を作成し、

過去の生息状況の概要把握を試みた。

## 結果

### 1. 文献別記録数

一次史料別記録数と探査に用いた二次史料を表1に示した。10件以上のまとまった記録数が得られた一次史料は11編と少なく、記録数には文献により偏りがみられるが、それぞれの史料には貴重な記録が認められた。

得られた総記録数5443件（註書を含む）のうち88%（4797件）は「尾陽産物志」、「知多郡産物書上帳」、「尾張国産物帳」に集中している（以下、「産物帳関連3編」という）。1735年に江戸幕府丹羽正伯から各地の産物をリストアップする指示が出され、各藩はそれに従い調査を開始し、報告書をまとめ上げたといわれている（安田、1986）。尾張藩においては「尾陽産物志」、「知多郡産物書上帳」の2編が残っている藩内のリスト集で、それらを元に幕府への報告書「尾張国産物帳」が編纂された。「知多郡産物書上帳」は水産物の記載が多いものの、村単位での産物調査がなされており、「尾張国産物帳」の資料として編纂された可能性が高い。調査原簿とみられる「尾陽産物志」とそれを元にした報告書である「尾張国産物帳」では、同じ郡内の生物名のうち約75%が完全に一致する（表2）。註書を除く尾張国内の郡別記録数にはほとんど差がないこと（表3）、「尾陽産物志」の成立年が「尾張国産物志」の前年であることもこの2編の関係性を裏付けている。

次に記録数の多い「金明録（猿猴庵日記）」、「鸚鵡籠中記」、「尾張徇行記」、「名陽見聞図絵」、「寛文村々覚書」、「見世物雑誌」などにもそれぞれ動物に関連した出来事、地名、見せ物興行など特徴ある記録が得られた。今のところ、わずかな記録しか発見できていないが、古文書などにも、獣害対策用の鉄砲の配備を記したいわゆる「鉄砲文書」が散見され、当時の哺乳類と人との関係を知る上での重要な記録が認められた。

表2. 尾張産物帳と尾陽産物志の記録数。註所を除く。

| 文献名   | 記録数  | 重複記録 | 重複%  |
|-------|------|------|------|
| 尾張産物帳 | 1524 | 1150 | 75.5 |
| 尾陽産物志 | 1525 |      | 75.4 |

表3. 尾張産物帳と尾陽産物志の郡別記録数。

| 文献    | 愛知郡 | 春日井郡 | 丹羽郡 | 葉栗郡 | 中嶋郡 | 海東郡 | 海西郡 | 知多郡 | (註書) |
|-------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 尾張産物帳 | 223 | 174  | 172 | 128 | 199 | 157 | 134 | 337 | 32   |
| 尾陽産物志 | 222 | 174  | 174 | 128 | 199 | 157 | 134 | 337 | 143  |

名和・野呂（2017） 江戸時代尾張国における哺乳類の文献記録

表1. 文献一覧と記録数. 一次資料の（ ）内は俗称を示す. 記録数は註書を含む.

| 一次史料          | 記録数  | 二次史料数 | 二次史料  |
|---------------|------|-------|---|
| 尾陽産物志         | 1668 | 1     | 名古屋市教育委員会編(1968b)   |
| 知多郡産物書上帳      | 1573 | 1     | 盛永俊太郎・安田健編(1986b)   |
| 尾張国産物帳(諸国産物帳) | 1556 | 1     | 盛永俊太郎・安田健編(1986a)   |
| 金明録(猿猴庵日記)    | 120  | 4     | 名古屋市教育委員会編(1962b), 竹内利美・原田伴彦・平山敏治郎編(1969), 原田伴彦編(1976), 名古屋市教育委員会編(1986)  |
| 鸚鵡籠中記         | 110  | 7     | 名古屋市教育委員会編(1962a), 塚本学編(1995a), 塚本学編(1995b), 名古屋市教育委員会編(1965a), 名古屋市教育委員会編(1966a), 名古屋市教育委員会編(1968a), 名古屋市教育委員会編(1969a)   |
| 尾張洵行記         | 77   | 5     | 名古屋市教育委員会編(1964b), 名古屋市教育委員会編(1966c), 名古屋市教育委員会編(1967), 名古屋市教育委員会編(1968c), 名古屋市教育委員会編(1969b)  |
| 名陽見聞図会        | 58   | 1     | 服部良男編(1987)   |
| 寛文村々覚書        | 54   | 3     | 名古屋市教育委員会編(1964a), 名古屋市教育委員会編(1965b), 名古屋市教育委員会編(1966b)   |
| 見世物雑誌         | 44   | 2     | 名古屋市教育委員会編(1962c), 郡司正勝・関山和夫編(1991)   |
| (瀬戸市近世古文書)    | 38   | 4     | 鈴木重喜・加藤高二(1993), 鈴木重喜・加藤高二(1998), 鈴木重喜・加藤高二(2000), 瀬戸市史編集委員会編(2003)   |
| 張州雑志          | 15   | 1     | 愛知県郷土資料刊行会編(1976a)  |
| 小治田之真清水       | 14   | 1     | 東海地方史学協会編(1986)   |
| 御日記頭書         | 7    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1961i)   |
| 町中諸事御仕置帳      | 7    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1961e)   |
| (昔咄)          | 7    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1963c)   |
| 犬山里語記         | 6    | 3     | 犬山市教育委員会編(1982), 犬山市教育委員会編(1987), 犬山市教育委員会編(1990)   |
| 尾州触帖通辞留       | 6    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1960e)   |
| 編年大略          | 5    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1962f)   |
| 那古野府城志        | 5    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1963b)   |
| 町触            | 5    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1961d)   |
| 金鱗九十九之塵       | 5    | 3     | 名古屋市教育委員会編(1959a), 名古屋市教育委員会編(1960h), 名古屋市教育委員会編(1963a)   |
| 尾藩令條          | 4    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1960b)   |
| 令留書抜          | 4    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1960d)   |
| (尾州家官制)       | 4    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1961f)   |
| 藩士必携          | 4    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1961h)   |
| 松濤棹筆          | 3    | 2     | 名古屋市蓬左文庫編(1984), 名古屋市蓬左文庫編(1986)  |
| 尾張名所図絵        | 3    | 1     | 尾張名所図絵を原文で読む会編(1998)  |
| 武家命令究事        | 2    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1960c)   |
| 尾藩諸法度         | 2    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1960g)   |
| (来栖村古文書)      | 2    | 1     | 犬山市教育委員会編(1982)   |
| 本草物品目録        | 2    | 1     | 名古屋市蓬左文庫編(1982)   |
| 感興漫筆          | 2    | 4     | 名古屋市教育委員会編(1960a), 名古屋市教育委員会編(1961a), 名古屋市教育委員会編(1961b), 名古屋市教育委員会編(1962d)  |
| 地方古義          | 1    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1966b)   |
| 尾張国御法度之古記     | 1    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1960f)   |
| 尾藩世記          | 1    | 2     | 名古屋市蓬左文庫編(1987a), 名古屋市蓬左文庫編(1987b)  |
| 塩尻            | 1    | 1     | 八切止夫校註(1980)  |
| (大泉神社古文書)     | 1    | 1     | 犬山市教育委員会編(1982)   |
| 史事随筆          | 1    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1961g)   |
| 塩尻拾遺          | 1    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1959b)   |
| 幡山村誌          | 1    | 1     | 幡山地区連合自治会編(1992)  |
| 袂草            | 1    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1964c)   |
| (村絵図)         | 1    | 1     | 名古屋市総務局編(1998)  |
| 趨庭雑話          | 1    | 1     | 名古屋市教育委員会編(1963d)   |
| 名区小景          | 1    | 1     | 愛知県郷土資料刊行会編(1976b)  |
| 田幡志           | 1    | 1     | 北区郷土史研究会編(2000)   |
| その他           | 16   | 9     | 新川町制五十周年記念町誌編集委員会編(1955), 新見吉治(1956), 名古屋市教育委員会編(1961c), 名古屋市教育委員会編(1962e), 名古屋市教育委員会編(1962g), 守山市史編さん委員会編(1963), 一宮市編(1967), 東野誌編集委員会編(1982), 春日井市教育委員会編(2008) |
| 総計            | 5443 | 82    |   |

## 2. 分野別記録数

表4に分野別の記録数を示した。産物帳関連3編による動物名を記載したものが4825件と圧倒的に多い。次に狩猟の記録が258件と多い。狩猟の内訳は、例えば「壱カ年三拾壹度、御獲物猪鹿四百四拾九、同二年同断拾参度御獲物猪鹿四百六拾八」（瀬戸市史編纂委員会編、2003）のような藩による「御狩」関連の記録が93件（36%）、「狼をつれ来り、八つになる兎を喰殺すに付、鉄砲にて打留、狼は逃去る。」（名古屋市教育委員会編、1968a）など鉄砲に関連する記録が91件（35%）、「御鷹場札・留川札、有。」（名古屋市教育委員会編、1964a）など御鷹場、鹿山、御留山など藩の猟区に関する記録が46件（18%）、「此頃筈瀬川にて大鰻を捕る。」（服部良男編、1987）など漁労に関する記録が18件（7%）、「鴈二つを取り、死したと思ひ、油断しけるに逃去る。」（服部良男編、1987）など人々の狩猟の記録が9件（4%）などであった。

娯楽や市井の出来事を記した「見せ物」「出来事」などには庶民の記録が多い。

表4. 文献からの分野別記録数. 註書を含む

| 分野  | 記録数  | %     |
|-----|------|-------|
| 記載  | 4825 | 88.6  |
| 狩猟  | 258  | 4.7   |
| 見せ物 | 131  | 2.4   |
| 出来事 | 130  | 2.4   |
| 法令  | 40   | 0.7   |
| 怪奇  | 28   | 0.5   |
| 被害  | 8    | 0.1   |
| 料理  | 7    | 0.1   |
| 伝承  | 3    | 0.1   |
| 病理  | 1    | 0.0   |
| その他 | 12   | 0.2   |
| 計   | 5443 | 100.0 |

「見せ物」が開催された地名では大須周辺が61件と最も多く、広小路周辺が27件、熱田周辺が7件と続いた。見せ物など興行が大須界限（現愛知県名古屋市中区大須周辺）で盛んであったことがうかがえる。見せ物の内容は海獺・丹頂・海蛇・じゃこう猫・らくだ・象・狼・河童・大蛸・大蛤・サンショ魚・雷獣・人魚など多岐にわたっている（動物名は原文のまま）。

「出来事」は各所で記録されている。話題となる動物も多岐にわたる。「犬くひつく事、評判高し。大分、犬殺し出て殺す。東向、別して病犬多き由」（原田伴彦編、1976）などイヌの記録が20件、「畑中にて、うはばみ、狐を呑ながら死して有由、見物多しとぞ」（名古屋市教育委員会編、1986）といううわばみなどへび類の記録が8件、「近年猪鹿多ク出、立毛喰荒し、村中殊外難渡仕候」（犬山市教育委員会編、1982）などイノシシの記録が7件、「熱田の井へ狐落て死」（名古屋市教育委員会編、1966a）などキツネの記録が7件、「伏見に而、病馬を生ながら埋む」（名古屋市教育委員会編、1968a）などウマの記録が7件、「佐屋道のはたにて鹿をたゝき殺す」（名古屋市教育委員会編、1966c）などシカの記録が6件、「頃日狼所々へ出。都合十八人、頃日の間に喰殺す」（名古屋市教育委員会編、1968a）というオオカミの記録が6件、「大魚流れ来たる。・・・鯨の子か」（塚本学編、1995b）というクジラの記録が5件と続いている。思わぬ動物が出現し人々が驚く様子を記録した記述が多い。

また、「怪奇」現象とはいえ動物名が判明した21件のうちキツネが6件、タヌキ4件、イヌ2件、オオカミ1件など当時生息した動物をうかがわせる記録もみられた。

## 3. 生物分類別記録数

便宜的な分類ではあるがそれぞれの記録数を表5にまとめた。ただし、尾張産物帳と尾陽産物志に添付されて

表5. 分類群別記録数. 註所を除く。

| 文献名          | 哺乳類 | 鳥類  | 爬虫類 | 両生類 | 魚類   | 昆虫類  | 節足動物 | 軟体動物 | その他 | 計    |
|--------------|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|-----|------|
| 尾張産物帳（註書を除く） | 78  | 170 | 70  | 34  | 271  | 612  | 146  | 117  | 26  | 1524 |
| 尾陽産物志（註書を除く） | 78  | 168 | 74  | 30  | 271  | 634  | 136  | 110  | 24  | 1525 |
| 知多郡産物書上帳     | 18  | 52  | 13  | 1   | 738  | 53   | 234  | 389  | 75  | 1573 |
| 他（上記の三編以外）   | 332 | 122 | 26  | 7   | 45   | 1    | 3    | 4    | 127 | 667  |
| 計            | 506 | 512 | 183 | 72  | 1325 | 1300 | 519  | 620  | 252 | 5289 |
| %            | 9.6 | 9.7 | 3.5 | 1.4 | 25.1 | 24.6 | 9.8  | 11.7 | 4.8 | 100  |

いる「註書」に記述された生物は、それぞれの本編中の生物の絵図付の補足説明であり重複するので省略した。産物帳関連3編以外の文献は一括した。

種名が不明なものもあるが、魚類が最も多く記録されている。その97%（1280件）は産物帳関連3編で占められており、なかでも知多郡産物書上帳に56%（738件）と多くの記録がある。知多郡産物書上帳には、魚類に加えてエビ・カニ類を含む節足動物やイカ・タコ・貝類を含む海棲動物とみられる動物の記録が同書上帳中の87%（1361件）と多い。次にチョウ・トンボ類など昆虫類が多く、海棲動物を多く含む軟体動物や節足動物（昆虫類をのぞく）、鳥類と続き、哺乳類は全体の10%（506

件）で記録が確認された。魚類とは異なり哺乳類の多くは産物帳関連3編以外の史料から認められた。一方で爬虫類や両生類は全体の3.5%（183件）、1.4%（72件）と少なかった。

#### 4. 哺乳類の種類別記録数と分野別頻度

哺乳類に関連する名称のすべてが種名とは断言できないが、便宜的に絵図や記載の内容から現行の和名等を推定し、哺乳類の記録506件を確認した。ただし、記録1件の中に哺乳類名が複数確認された場合もあった。最終的に哺乳類名を38種類に集約した。推定された動物名やそれぞれの記録数、分野別頻度を表6に示した。表

表6. 尾張国における各哺乳類の記録数と分野別頻度。

| 引用文献での表記例                 | 推定された動物の和名，その他             | 記録数 | 分野別頻度（%）  |      |  |
|---------------------------|----------------------------|-----|-----------|------|--|
|                           |                            |     | 記載，出来事，狩猟 | 見せ物  |  |
| 水鼠                        | カワネズミ                      | 1   | 100       | 0    |  |
| 土龍，うくらもち，うぐらもち，ヒミズ        | モグラ類（数種が含まれる可能性あり）         | 12  | 100       | 0    |  |
| 蝙蝠                        | コウモリ類（数種が含まれる可能性あり）        | 4   | 100       | 0    |  |
| 猿，猿猴，さる                   | ニホンザル                      | 16  | 50        | 50   |  |
| 尾長ざる                      | オナガザル科の一種                  | 1   | 0         | 100  |  |
| 黒猿猴                       | テナガザル科の一種                  | 1   | 0         | 100  |  |
| 狸々                        | オランウータン                    | 2   | 0         | 100  |  |
| 鼠，ねずみ，廿日鼠，畑鼠，畑ねずみ，畑ねずみ    | ネズミ類（数種を含む）                | 26  | 100       | 0    |  |
| 栗鼠                        | ニホンリス                      | 1   | 100       | 0    |  |
| 白猿鳥，寒号鳥，モ>カ               | ムササビ（モモンガ類や別種の可能性あり）       | 3   | 0         | 100  |  |
| 山あらし，豪猪，山嵐                | ヤマアラシの一種                   | 3   | 0         | 100  |  |
| 兎，うさぎ，うさぎ                 | ニホンノウサギ（カイウサギが含まれる可能性あり）   | 19  | 84.2      | 15.8 |  |
| 狐，きつね                     | アカギツネ                      | 37  | 78.4      | 21.6 |  |
| 狸，たぬき                     | タヌキ                        | 22  | 54.5      | 45.5 |  |
| 狼，大かみ                     | オオカミ                       | 27  | 66.7      | 33.3 |  |
| 犬，いぬ                      | イエイヌ                       | 56  | 67.9      | 32.1 |  |
| 山の狗，山ノ犬                   | ヤマイヌ（オオカミまたはノイヌの可能性あり）     | 2   | 0         | 100  |  |
| 猫，ねこ                      | イエネコ                       | 26  | 96.2      | 3.8  |  |
| 豹                         | ヒョウ                        | 1   | 0         | 100  |  |
| 熊                         | クマ類                        | 3   | 33.3      | 66.7 |  |
| 鼯，いたち，みそいたち               | ニホンイタチ                     | 21  | 95.2      | 4.8  |  |
| てん，木狗                     | ニホンテン                      | 16  | 50.0      | 50.0 |  |
| 水獺，川うそ，かわうそ，かはうそ，獺        | カワウソ                       | 8   | 87.5      | 12.5 |  |
| 獺，むじな，まみたぬき               | ニホンアナグマ                    | 5   | 60.0      | 40.0 |  |
| 雷獣                        | ハクビシン？（別種または想像上の動物の可能性あり）  | 3   | 66.7      | 33.3 |  |
| じゃこう猫，山ねこ                 | ジャコウネコ科の一種                 | 1   | 0         | 100  |  |
| 水豹                        | アザラシ類                      | 13  | 0         | 100  |  |
| 海獺，あしか，あし鹿                | アシカ類                       | 6   | 66.7      | 33.3 |  |
| 駱駝，らくだ                    | ラクダ類                       | 5   | 0         | 100  |  |
| 猪，いの志し，いのし>               | イノシシ                       | 47  | 91.5      | 8.5  |  |
| 鹿，かのしし                    | ニホンジカ                      | 112 | 89.3      | 10.7 |  |
| 牛，丑                       | ウシ                         | 6   | 33.3      | 66.7 |  |
| 羊，綿羊                      | ヒツジ                        | 2   | 0         | 100  |  |
| 羚羊，岩獅子，                   | カモシカ                       | 8   | 0         | 100  |  |
| 鯨，鯨魚，くじら，せび，長須鯨，世美鯨，いるかなど | クジラ類（数種を含む）                | 19  | 68.4      | 31.6 |  |
| 馬，駒                       | ウマ                         | 17  | 41.2      | 58.8 |  |
| 獾，ばく                      | バク科の一種？（別種または想像上の動物の可能性あり） | 3   | 0         | 100  |  |
| 象                         | ゾウ類                        | 1   | 0         | 100  |  |

6では、複数種の可能性があるものや種の同定が困難であった場合は、モグラ類、ジャコウネコ科の一種などとして表記した。また、同定はしたものの疑問が残るものについては「？」マークを付記した。特に雷獣や獺（ばく）については、想像上の動物や別種の動物を示す可能性も否定できない。

推定された哺乳類では、ニホンジカ (112件) の記録が最も多く、イエイヌ (56件)、イノシシ (47件)、アカギツネ (37件) と続き、絶滅種であるオオカミ (27件) やカワウソ (8件) の記録も認められた。クジラ類やアザラシ類、アシカ類の名も残っており、海産哺乳類の記録も多く認められた。その他、分野別にみると、見せ物としてオランウータンやヤマアラシ類、ゾウ類といった外国産の哺乳類も認められた。

## 考察

### 1. 哺乳類と当時の人々とのかかわり

分野別の項目のうち「記載・出来事・狩猟」は、尾張国内や近隣での生息に基づく情報と考えられる。他方、「見せ物」は興行として人々が会場に出向き見物料を払っても見たい珍しい特異な動物が対象となっていると考えられる。この二つのグループに注目して、各動物が当時の人々とどのようなかかわりがあったかについて推測する。

表6に示した「記載・出来事・狩猟」と「見せ物」の分野別頻度の比較から、「見せ物」の頻度が高かった哺乳類 (家畜を除く) としてオナガザル類、テナガザル類、オランウータン、ムササビ、ヤマアラシ類、クマ類、ヒョウ、ジャコウネコ類、アザラシ類、カモシカ、ラクダ類、バク類 (?), ゾウ類があげられる (バク類については、想像上の動物または別種の動物を表す可能性もある。バク類が本当に見せ物にされていたのか確証は得られていない)。この内、明らかに外国産の哺乳類については、名古屋市内の大須、広小路、熱田周辺で、実際に興行として当時の人々の見せ物とされていたと考えられる。一方、日本産の可能性が高いムササビ、クマ類、アザラシ類、カモシカについては、身近ではめったに見られなかったため、捕獲されると見せ物にされた国内産の「珍しい」動物と言えるのかもしれない。

一方、「記載・出来事・狩猟」の頻度が高い哺乳類として、カワネズミ、モグラ類、コウモリ類、ネズミ類、

ニホンノウサギ、アカギツネ、ニホンイタチ、カワウソ、イノシシ、ニホンジカをあげることができる。これらは当時、人々の日常の中でそれほど希少とは見られていない「普通種」であり、人々にとっては身近な存在であったと考えられる。ただし、記録数が極端に少なかったカワネズミについては、当時も希少であったか、あるいはあまり身近な動物ではなかった可能性が高い。

「記載・出来事・狩猟」と「見せ物」の頻度が拮抗しているか、または「記載・出来事・狩猟」の頻度が比較的高い哺乳類としてニホンザル、タヌキ、ニホンテン、オオカミ、ニホンアナグマ、ハクビシン (?), アシカ類、クジラ類があげられる (ハクビシンについては、想像上の動物または別種の動物を表す可能性もある。確実にハクビシンであったという確証は得られていない)。これらは、尾張国内や近隣で見られるものの、見せ物として効果的であった (人気が高かった) のかもしれない。

当時の人々と動物との関わり合いの中で、獣害被害もまた重要な意味を持つようである。例えば鸚鵡籠中記 (塚本, 1995b) に「狼多く出るにより (中略) 鉄砲にて撃たしむ」というように害獣に難儀をしている文書の他、尾張徇行記 (名古屋市教育委員会, 1966c) の鍋屋上野村 (現名古屋市千種区鍋屋上野町) の項にある「一猟師玉込鉄砲一挺アリ」のような害獣駆除や威しのための鉄砲所持記録 (いわゆる鉄砲文書)、さらに寛文村々覚書 (名古屋市教育委員会, 1964a) の中志段味村 (現名古屋市守山区中志段味) の項に「一鹿垣土居七百五拾間 杭木材、公儀より渡ル。縄網ハ百姓自分」とあるように防除のためのシシ垣設置時に藩からの支給品があった文書などがこれにあたる。これらのほとんどには動物名の記述はないが、イノシシ、ニホンジカ、オオカミなど害獣による被害対策であることは明らかである。

田口 (1997) は丹沢山地周辺の鉄砲文書から近世における鉄砲の配置と鳥獣による被害地域の相関を明らかにした。新津 (2011) は近世の甲斐国における被害防除費用や猟師への賃金が記述された「村夫銭帳」から獣害被害の状況を明らかにしている。尾張藩の村夫銭帳は今のところ未発見であるが、今後さらにこれら鉄砲文書などを探査することで被害状況と詳細な大型哺乳類の生息分布を明らかにできるのかもしれない。

表7. 尾張国における郡別哺乳類の記録リスト.

| 推定された動物の和名, その他            | 愛知郡 | 春日井郡 | 丹羽郡 | 中嶋郡 | 葉栗郡 | 海東郡 | 海西郡 | 知多郡 | 御城下 (名古屋市内) |
|----------------------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------------|
| カワネズミ                      | 0   | 1    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0           |
| モグラ類                       | 2   | 2    | 0   | 2   | 2   | 2   | 2   | 0   | 0           |
| コウモリ類                      | 1   | 3    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1           |
| ニホンザル                      | 1   | 3    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1           |
| ネズミ類 (数種を含む)               | 5   | 2    | 2   | 1   | 4   | 4   | 2   | 4   | 1           |
| ニホンリス                      | 0   | 1    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0           |
| ニホンノウサギ (カノウサギを含む可能性あり)    | 1   | 1    | 1   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1   | 0           |
| アカギツネ                      | 10  | 3    | 4   | 2   | 2   | 2   | 2   | 3   | 4           |
| タヌキ                        | 3   | 3    | 2   | 2   | 0   | 0   | 0   | 2   | 3           |
| オオカミ                       | 3   | 6    | 2   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 3           |
| ヤマイヌ (オオカミまたはノイヌの可能性あり)    | 1   | 1    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1           |
| ニホンイタチ                     | 4   | 2    | 2   | 2   | 2   | 1   | 2   | 5   | 0           |
| ニホンテン                      | 2   | 0    | 0   | 0   | 0   | 2   | 2   | 2   | 0           |
| カワウソ                       | 0   | 1    | 3   | 0   | 0   | 0   | 2   | 2   | 0           |
| ニホンアナグマ                    | 0   | 1    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 2   | 0           |
| ハクビシン? (別種または想像上の動物の可能性あり) | 1   | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1           |
| アザラシ類                      | 12  | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 12          |
| アシカ類                       | 3   | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 3   | 0           |
| イノシシ                       | 16  | 6    | 5   | 0   | 0   | 0   | 0   | 5   | 8           |
| ニホンジカ                      | 38  | 46   | 8   | 1   | 0   | 0   | 0   | 4   | 36          |
| クジラ類 (数種を含む)               | 2   | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 5   | 1           |

## 2. 尾張国内の野生哺乳類

「記載・出来事・狩猟」の記録の内、地名が明記された記録から尾張国内各郡（旧郡）における哺乳類の記録リストを作成した（表7）。また、愛知郡内の御城下を含む現名古屋市内のものともみられるリストを付け加えた。

現在は絶滅しているオオカミは愛知郡、春日井郡、丹羽郡で、カワウソは春日井郡、丹羽郡、海西郡、知多郡で生息していた可能性がある。ニホンジカの記録数は愛知郡、春日井郡、丹羽郡で多く、一部知多半島にも生息していたと考えられる。海洋に面した愛知郡や知多郡ではわずかながらクジラ類の記録が認められた。

現在の名古屋市の範囲で記録された野生の陸棲哺乳類には、ニホンジカ、イノシシ、アカギツネ、タヌキ、オオカミ、コウモリ類、ネズミ類があげられる。現在の名古屋市内の哺乳類リスト（野呂, 2015）と比較すると、ニホンジカとオオカミはすでに市内から絶滅しているが、ニホンジカについては現在、名古屋市近郊の瀬戸市などにも生息しており、今後、再び名古屋市内に進出してくる可能性も十分考えられよう。

主な哺乳類の記録が確認できた郡を図2にまとめた。これはいわば推定分布図であり、さらに史料や標本を調査し、江戸時代の正確な分布図に近づける必要がある。しかしながら、記録の多い種類の分布図については、現在の分布と比較するという意味においては示唆に富むも

のになっている。

アカギツネやタヌキ、ニホンイタチについてはほとんどの郡で確認されており、当時はこれらの種が広範囲の地域に分布していたことが示唆される。その他、現在の尾張東部丘陵地域や知多半島地域の記録から、当時この地域には、絶滅種も含め、非常に多様な哺乳類が生息していたことが示唆される。

## 3. 江戸時代におけるニホンジカの記録数の変遷

哺乳類中で記録数が最も多いニホンジカの10年単位で集約した記録数を図3に示した。江戸時代におけるニホンジカの記録数において、極端に多い記録年や少ない記録年があるなど変動が認められる。これはニホンジカの実際の個体数変動に起因するのかもしれない。例えば、ニホンジカの個体数が増えたために人々の目につきやすく、話題になることも多くなったため記録数も増えた、逆に個体数が減ることで記録数も減少したという説明ができるかもしれない。しかし、現段階では仮説にすぎない。今後も各時期での文献数やその内容の比較などにも注目し、調査を継続する予定である。

## 4. 最後に

各藩が江戸幕府に提出した報告（尾張国産物帳）でも、幕府の官僚方による査読でどのような生物か不明瞭なも

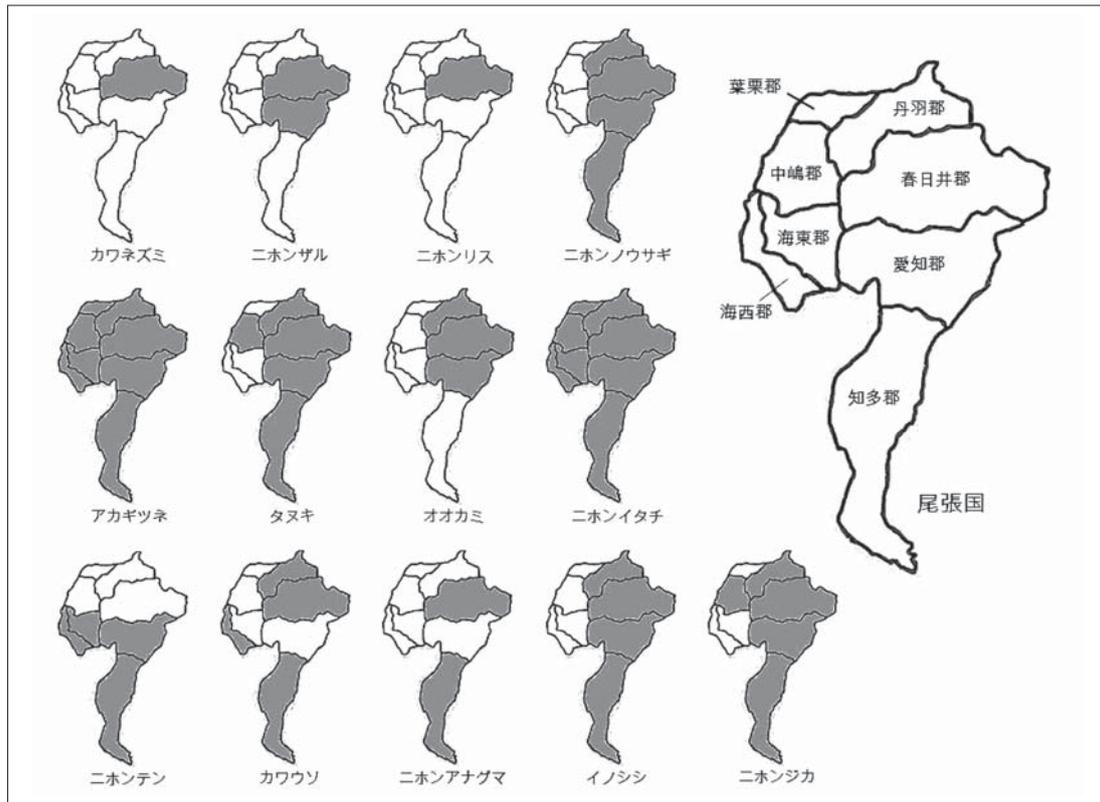


図1. 尾張国における哺乳類の郡別推定分布図（■は記録がある郡を示す）。

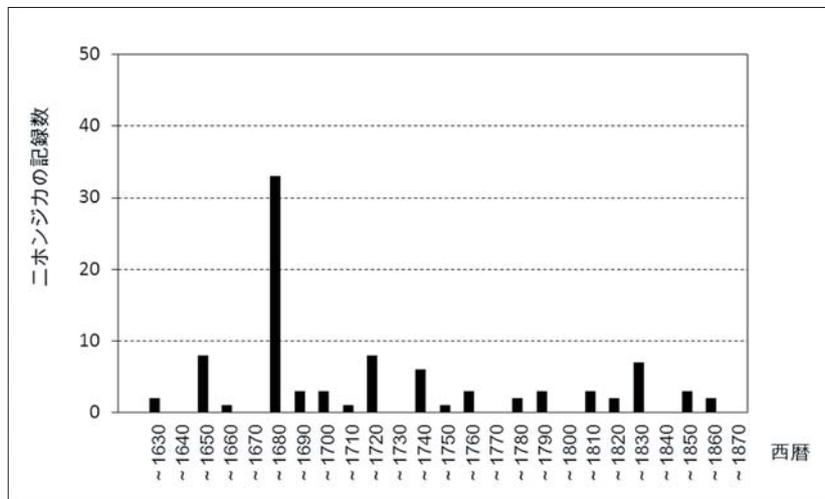


図2. 尾張国におけるニホンジカ記録数の経年変化

のについては詳しい説明や図を「註書」として添付させるなど再提出させたといわれている（盛永俊太郎・安田健編, 1986b）。しかし、それでもなお例えば知多郡産物書上帳における魚類などには澁澤（1958）などを参考にしても地方名など同定困難なものが多く含まれている。江戸時代尾張藩の哺乳類相とその分布についても、同様

に種の同定が困難なものも多く、標本も未発見であることから、新たな史料、記録を探索する必要があるだろう。また、生息数や現況までの経緯が不明であることから、今後は、江戸時代から現在に至る明治・大正・昭和時代の記録の探索も必要であろう。

## 謝辞

名古屋市博物館が近世の生物史料を記録した文献が本調査の動機となった（名古屋市博物館，2002：名古屋市博物館，2007：名古屋市博物館，2013）。同博物館の関係各位に御礼申し上げたい。また，調査に際し御助言をいただいた高田靖司博士にも御礼申し上げたい。既述のように本調査は二次史料をもとに行われた。一次史料である古文書を解読できる能力のない我々でも，過去の史料が検討できるのは大変ありがたい。最後になったが，古文書の解読にあたられた多数の皆様にご感謝申し上げます。

## 引用文献

- 愛知県郷土資料刊行会編。1976a. 張州雑誌12. 愛知県郷土資料刊行会，名古屋。881pp.
- 愛知県郷土資料刊行会編。1976b. 名区小景翻刻版三編。愛知県郷土資料刊行会，名古屋。253pp.
- 郡司正勝・関山和夫編。1991. 見世物雑誌。三一書房，東京。287pp.
- 原田伴彦編。1976. 猿猴庵日記（文政日記大略）。日本都市生活史料集成第4巻，pp.584-661. 学習研究社，東京。
- 幡山村誌編集委員会。1992. 幡山村誌。幡山地区連合自治会，瀬戸。474pp.
- 服部良男編。1987. 名陽見聞図会，pp.11-651. 美術文化史研究会，名古屋。
- 東野誌編集委員会編。1982. 東野誌，pp.425-426. 春日井東野土地区画整理組合，春日井。
- 犬山市教育委員会編。1982. 自然。犬山市史資料編2，pp.263-268. 犬山市教育委員会，犬山。
- 犬山市教育委員会編。1987. 近世上。犬山市史史料編4. 犬山市教育委員会，犬山。511pp.
- 犬山市教育委員会編。1990. 近世下。犬山市史史料編5. pp.160-202. 犬山市教育委員会，犬山。
- 一宮市編。1967. 尾張藩村方御触書集。新編一宮市史資料編7，pp.13-24. 一宮市，一宮。
- 春日井市教育委員会編。2008. 郷土史かすがい67，pp.2-4. 春日井市教育委員会，春日井。
- 神田茂。1973. 三正綜覧。内務省地理局（編）。芸林舎，鎌倉。428pp.
- 北区郷土史研究会編。2000. 解説「田幡志」。北区郷土史研究会，名古屋。157pp.
- 盛永俊太郎・安田健編。1986a. 尾張国産物。享保元文諸国産物帳集成4，pp.469-832. 科学書院，東京。
- 盛永俊太郎・安田健編。1986b. 知多郡産物書上帳。享保元文諸国産物帳集成4，pp.841-890. 科学書院，東京。
- 守山市史編さん委員会編。1963. 守山市史。愛知県守山市役所，守山。624pp.
- 名古屋市博物館編。2002. 盛り場 祭り・見せ物・大道芸。名古屋市博物館，名古屋。103pp.
- 名古屋市博物館編。2007. 大にぎわい城下町名古屋。名古屋市博物館，名古屋。157pp.
- 名古屋市博物館編。2013. 名古屋城下お調べ帳。名古屋市博物館，名古屋。95pp.
- 名古屋市教育委員会編。1959a. 金鱗九十九之塵。名古屋叢書6，pp.400-401. 名古屋市教育委員会，名古屋。
- 名古屋市教育委員会編。1959b. 塩尻拾遺。名古屋叢書18. 名古屋市教育委員会，名古屋。449pp.
- 名古屋市教育委員会編。1960a. 感興漫筆（上）。名古屋叢書19. 名古屋市教育委員会，名古屋。421pp.
- 名古屋市教育委員会編。1960b. 尾藩令條。名古屋叢書2，pp.155-226. 名古屋市教育委員会，名古屋。
- 名古屋市教育委員会編。1960c. 武家命令究事。名古屋叢書2，pp.53-154. 名古屋市教育委員会，名古屋。
- 名古屋市教育委員会編。1960d. 令留書拔。名古屋叢書2，pp.247-330. 名古屋市教育委員会，名古屋。
- 名古屋市教育委員会編。1960e. 尾州触帖通辞留。名古屋叢書2，名古屋市教育委員会，名古屋。474pp.
- 名古屋市教育委員会編。1960f. 尾張国御法度之古記。名古屋叢書2，pp.8-9. 名古屋市教育委員会，名古屋。
- 名古屋市教育委員会編。1960g. 類聚・尾藩諸法度。名古屋叢書2. 名古屋市教育委員会，名古屋。355pp.
- 名古屋市教育委員会編。1960h. 金鱗九十九之塵。名古屋叢書7，pp.215-216. 名古屋市教育委員会，名古屋。
- 名古屋市教育委員会編。1961a. 感興漫筆（中）。名古屋叢書20. 名古屋市教育委員会，名古屋。464pp.
- 名古屋市教育委員会編。1961b. 感興漫筆（下ノ一）。名古屋叢書21. 名古屋市教育委員会，名古屋。387pp.
- 名古屋市教育委員会編。1961c. 中諸事御仕置帳。名古屋叢書3. 名古屋市教育委員会，名古屋。548pp.
- 名古屋市教育委員会編。1961d. 町触。名古屋叢書3，

- pp.402-510. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1961e. 町中諸事御仕置帳. 名古屋叢書3, pp.372-373. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1961f. 尾州家官制. 名古屋叢書3, pp.6-17. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1961g. 史事随筆. 名古屋叢書3, pp.208. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1961h. 藩士必携. 名古屋叢書3, pp.58-59. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1961i. 御日記頭書. 名古屋叢書5, pp.27-210. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1962a. 鸚鵡籠中記. 名古屋叢書17, pp.106-113. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1962b. 絵入 猿猴庵日記. 名古屋叢書17, pp.115-276. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1962c. 見世物雑誌. 名古屋叢書17, pp.311-524. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1962d. 感興漫筆(下ノ二). 名古屋叢書22. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 390pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1962e. 能知亭折助嘶 高田山開帳 参案内図絵. 名古屋叢書17, pp.277-310. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1962f. 編年大略. 名古屋叢書4, pp.244-418. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1962g. 地方品目階. 名古屋叢書10, pp.455-464. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1963a. 金鱗九十九之塵. 名古屋叢書8. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 160pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1963b. 那古野府城志. 名古屋叢書9, pp.116-343. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1963c. 昔咄. 名古屋叢書24, pp.108-375. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1963d. 趨庭雑話. 名古屋叢書24. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 426pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1964a. 寛文村々覚書(上). 名古屋叢書続編1. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 431pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1964b. 愛知郡. 名古屋叢書続編4. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 502pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1964c. 袂草. 名古屋叢書23, pp.1-287. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1965a. 鸚鵡籠中記. 名古屋叢書続編9. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 416pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1965b. 寛文村々覚書(中). 名古屋叢書続編2. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 452pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1966a. 鸚鵡籠中記. 名古屋叢書続編10. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 562pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1966b. 寛文村々覚書(下)・地方古義. 名古屋叢書続編3. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 447pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1966c. 春日井郡. 名古屋叢書続編5. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 614pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1967. 丹羽郡・中島郡. 名古屋叢書続編6. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 461pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1968a. 鸚鵡籠中記. 名古屋叢書続編11. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 657pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1968b. 尾陽産物志. 名古屋叢書11, pp.1-170. 名古屋市教育委員会, 名古屋.  
 名古屋市教育委員会編. 1968c. 海東郡. 名古屋叢書続編7. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 417pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1969a. 鸚鵡籠中記. 名古屋叢書続編12. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 741pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1969b. 海西郡・知多郡. 名古屋叢書続編8. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 428pp.  
 名古屋市教育委員会編. 1986. 金明録(猿猴庵日記). 名古屋叢書三編14. 名古屋市教育委員会, 名古屋. 481pp.  
 名古屋市蓬左文庫編. 1982. 本草会物品目録. 名古屋叢書三編19, pp.209-291. 名古屋市蓬左文庫, 名古屋.  
 名古屋市蓬左文庫編. 1984. 松濤棹筆(抄)上. 名古屋叢書三編9. 名古屋市蓬左文庫, 名古屋. 395pp.  
 名古屋市蓬左文庫編. 1986. 松濤棹筆(抄)下. 名古屋叢書三編10. 名古屋市蓬左文庫, 名古屋. 460pp.  
 名古屋市蓬左文庫編. 1987a. 尾藩世記上. 名古屋叢書三編2. 名古屋市蓬左文庫, 名古屋. 478pp.  
 名古屋市蓬左文庫編. 1987b. 尾藩世記下. 名古屋叢書三編3. 名古屋市蓬左文庫, 名古屋. 386pp.  
 名古屋市. 1998. 江戸期名古屋アトラス. 新修名古屋市史報告書4. 名古屋市総務局, 名古屋. 77pp.  
 名和明. 2008. 哺乳類. 新修名古屋市史編集委員会(編). 新修名古屋市史資料編自然, pp.315-322. 名古屋市,

- 名古屋.
- 新見吉治. 1956. 尾張藩の地頭と百姓. 郷土文化, 11 (4) : 1-5.
- 新津健. 2011. 猪の文化史歴史編. 189pp. 雄山閣, 東京.
- 野島寿三郎. 1987. 日本暦西暦月日対照表, 291pp. 日外アソシエーツ, 東京.
- 野呂達哉. 2015. 哺乳類. レッドデータブックなごや2015動物編. pp.27-53. 名古屋市環境局, 名古屋.
- 尾張名所図絵を原文で読む会編. 1998. 尾張名所図絵後編 6. ブックショップマイタウン, 名古屋. 146pp.
- 瀬戸市史編纂委員会編. 2003. 近世. 瀬戸市史資料編4. 瀬戸市, 瀬戸. 500pp.
- 澁澤敬三. 1958. 日本魚名集覧第一集. 角川書店, 東京. 526pp.
- 新川町制五十周年記念町誌編纂委員会編. 1955. 新川町誌, pp.1359-1350. 新川町, 新川.
- 鈴木重喜・加藤高二. 1993. 近世文書. 瀬戸市史編纂委員会 (編). 瀬戸市近世文書集4, pp.109-123. 瀬戸市, 瀬戸.
- 鈴木重喜・加藤高二. 1998. 近世文書. 瀬戸市史編纂委員会 (編). 瀬戸市近世文書集6, pp.99-101. 瀬戸市, 愛知.
- 鈴木重喜・加藤高二. 2000. 近世文書. 瀬戸市史編纂委員会 (編). 瀬戸市近世文書集7, pp.7-187. 瀬戸市, 瀬戸.
- 竹内利美, 原田伴彦, 平山敏治郎編. 1969. 猿猴庵日記. 日本庶民生活史料集成9, pp.265-338. 三一書房, 東京.
- 田口洋美. 1997. 丹沢山地および周辺の開拓と鳥獣排除の歴史的相関について. 丹沢大山自然環境総合調査報告書, pp.422-452. 神奈川県環境部, 横浜.
- 東海地方史学協会編. 1986. 小治田之真清水. 尾張名所圖會遺稿. 東海地方史学協会, 名古屋. 648pp.
- 塚本学編. 1995a. 摘録 鸚鵡籠中記 (上). 岩波書店, 東京. 373pp.
- 塚本学編. 1995b. 摘録 鸚鵡籠中記 (下). 岩波書店, 東京. 374pp.
- 八切止夫校註. 1980. 塩尻百卷本事典. 日本シェル, 東京. 623pp.
- 安田健. 1986. 「享保元文諸国産物帳」解題. 享保元文諸国産物帳集成, pp.1019-1037. 科学書院, 東京.